

機能や整容面にもこだわる高度な手術技術を提供 地域医療に新風を吹き込む名戸ヶ谷病院脳神経外科の挑戦

1983年の開設当初から急性期分野の24時間救急搬送対応など、断然な「救急」を実践する名戸ヶ谷病院は、千葉県柏市を中心とする地域に貢献を続けてきた。2019年に現在の所在地に移転した同院は、救急医療だけでなくさまざまな疾患に対する手術や予防医学などにも積極的に取り組み、その特徴を生かした新しい地域医療のあり方を提示している。中でも、ロボット手術などを行う整形外科、脳卒中などの急性期の治療に加え、難症例に対する先進的な手術に取り組む脳神経外科は、同院が重点的に取り組む「二枚看板」と言ってもいい存在だ。今回は、今年8月にアメリカから帰国し脳神経外科部長に就任した井上靖章医師に、同院の新たな試みや、最先端手術が地域に与える恩恵などについて聞いた。

名戸ヶ谷病院の進化を象徴する 新生・脳神経外科

初期対応での迅速な対応が予後を左右する脳血管疾患では、治療体制の充実度がそのまま地域の医療の質に直結する。千葉県柏市の名戸ヶ谷病院は、脳卒中を初めとする急性期治療で、多くの命を救ってきた。その同院に今年8月、アメリカ・ハーバード大学から帰国した「手術のエキスパート」が外科部長として赴任した。

井上靖章医師は、上山博康脳神経外科塾で脳神経外科手術の技術を磨き、ハーバード大学、Brigham and Women's Hospitalなどで多くの手術

を経験した。開頭手術、血管内手術ともに豊富な経験を持つ同医師は、研修医時代を過ごした柏の地で、新たな挑戦を始めるべく名戸ヶ谷病院へとやってきた。

「日本の病院と一括りにはできませんが、やはり技術もそうだし、これはもともと大きな問題として組織として、患者さんに最高の医療をスムーズに提供する体制がなかなかつくりづらいところがあると思うんです。その部分を変えていきたい。名戸ヶ谷病院ではその挑戦ができるということ、帰国後の選択として名戸ヶ谷病院でメスを握ることを選びました」

コロナ禍の医療逼迫に際しても、す

「真のチーム医療」の 実現に向けて

「アメリカでは、お互いのスペシャリティを生かすことを最優先します。私なら手術の技術です。それを最大限に生かすにはどうするかという視点でチーム全員が動きます」

とかく日本では「苦手をつくらない」ことや「オールマイティにこなすこと」を求められがちで、医師だけでなく技師や看護師も「できていないこと」が気になるあまり、それを指摘したり不満を募らせたりする傾向にある。

「アメリカでは、医師もビジネススクールでチームマネジメントなどを学んでいます。私もハーバード時代に勉強会に参加させてもらって、こうした感覚の重要性を学びました」

チーム医療というと、人員数や体制



脳神経外科 部長 井上 靖章 (いのうえ やすあき)

京都大学医学部卒業。上山博康脳神経外科塾にて脳神経外科手術の研鑽を行う。その後米国に渡りハーバード大学・Brigham and Women's Hospitalで数多くの手術を経験したのち、2021年より現職。開頭手術と血管内手術の二刀流を駆使した治療を行う。同院の若手トレーニングだけでなく、国際学会の招待講演やハンズオンセミナー、ライブ手術などを通じて教育にも力を注ぐ。日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医。



手術室に設置された顕微鏡は、最大倍率21倍の高性能のもの。手術時間を少しでも短縮するため倍率変更のコントロールが最速できるようにギアのチューニングを施している

でに内在していた数多くの問題が顕在化しているが、日本の医療をめぐる問題は、そのまま患者である我々に跳ね返ってくる。法律や仕組み、国に関わる部分もあるが、大病院の縦割り、連携や連動がうまく行かず柔軟性に欠ける地域医療など、これまでの構造や体制に依るところも少なくない。井上医師は、こうした問題を足元から、つまりは自分が勤める病院、脳神経外科、自分の手術室から変えていこうと理想に燃えている。

日本・アメリカで培った 高度な手術技術

もちろん、基本となるのは地域の患者の命を最優先に救い、その上で最先端の医療を提供するという同院のこれまで果たしてきた役割をさらに拡大することだ。救急救命に付随する未破裂の動脈瘤の処置などはもちろん、頭蓋底手術を要する脳腫瘍や高度なバイパス術を要する動脈瘤や、もやもや病などの難症例に対する顕微鏡下手術も積極的に行う。

「日本で徹底的に学んだ開頭手術を始めとする外科手術に加えて、アメリカでは最新のカテーテル手術のトレーニングを受けました。年間（2020年7月）

名戸ヶ谷病院が目指す地域医療のあり方は、まさにこうした考え方に合致する。コロナ禍にあっても救急医療の「最後の砦」として機能しつつ、小回りの利く個人病院の良さと、大学病院にも負けない技術を提供する。

柏から始まる 地域医療改革の芽

帰国時に、名戸ヶ谷病院での改革に挑む井上医師に、ハーバード時代の恩師は三つの助言をくれたという。

一つは、「人を知ること」。二つ目は、「システムを知ること」。そして三つ目は「果たしたい目標を達成するためのワークフローを確立すること」。

真のチーム医療を実現し、すべての患者に高水準の医療を届ける。名戸ヶ谷病院の挑戦は、地域医療のあり方を大きく変える第一歩になるかもしれない。

社会医療法人社団 水会 名戸ヶ谷病院

〒277-0084 千葉県柏市新柏2-1-1
TEL.04-7167-8336

<https://www.nadogaya.com/>

【診療時間】月曜～金曜：9:00～12:00
14:00～17:00
土曜：9:00～12:30

【休 診】日曜・祝日
急患は24時間365日対応

【診療科目】内科・外科・整形外科・
脳神経外科・形成外科など
全17科目



一刻を争う脳卒中の治療では、カテーテル室にスタンバイした医師がスムーズに治療に当たれる動線を確保。高精細の血管撮影装置で、血栓を素早く見つけ治療を行う



井上医師が掲げるもう一つの改革は、後進の指導。手術のトレーニングについては、自身が最高の環境で学んだように、必要があればすべてをオープンにしてシェアしていく方針だ